ふれあいハイキング
水害の記録を辿る

11月最終日曜日、田中町連合自治会館を発着の起点として、恒例のふれあいハイキングを実施した。今回は昭和22年9月15日のカスリーン台風被害に焦点を当てた。

まず、旧十念寺堤近傍の堤防上のお地蔵様とシンボルタワー「清流渡良瀬21」を訪ねる。国交省渡良瀬河川事務所の資料も参考としながら、大災害とその後の関係者の尊い発願と供養の歴史を刻ませて頂く。

そこから東南へ1.6㎞、ピンポン寺徳蔵寺へ。絵本「洪水の夜」にもなっている源田晃澄師の体験談と石碑に刻む犠牲者の名前を今も探しているという供養の来し方を拝聴する。（本紙65号の源田晃澄師講演会参照）

五百羅漢堂等境内を拝観後、グリーンプラザ迄戻り、暖かい陽射しの下で昼食。その後3階ふれあい館「せせら」にて渡良瀬川の詳細な解説資料を見学。PCで川クイズもあり楽しい所。

今回のハイキングは委員長の渡良瀬川と市の関わり資料の他に、河川事務所発行の参考資料が頂けて、学習ハイクとなった。

表彰を受ける
アルミ缶リサイクル協会より

11月21日東京如水会館にて優秀回収協力団体として表彰され、記念品として5万円を授与された。14年続けている活動のご褒美。推薦者㈱ベネッセに感謝。

国内リサイクル物の中でアルミ缶は抜群の実績で、アルミ缶回収率99.8%、内、缶への再生率は75%という。

又、回収缶から缶製造のエネルギーは、原石精錬から缶製造までのエネルギーの3%で済むという。すごい省エネ物だ。これからもリサイクル活動へのご協力をお願い致します。

表彰状と記念品 頂いて、
「ありがとうございます」

足利市社会福祉施設代表者協議会の職員研修

「福祉制度の狭間にある人々を支える取組を、実践者から学ぶ」にて報告。

9月19日開催され、実践報告として、フードバンク足利の高沢友佳里氏、渡良瀬会こども食堂実践の矢澤博司氏、高齢者への配食と見守り活動で当社協事務局長樋口茂延の3氏、続けてのパネルディスカスのモデレーターには東京福祉大学准教授北爪克洋氏が。「自分達の世界の隣をもっと見て行こう」が主旨の会。

時の断想
冬のにおい

ブリキの衣装ケースは半年前の冬を連れてきた。

エビス講の夕方。樟脳の匂いと丈の短くなったオーバーを着たまま、父の帰りを待っていた。

暗い参道の両側に並ぶ店、シャラシャラと鳴るおたからの音。綿菓子とソースの匂い。白衣の傷病軍人、もの悲しいアコーディオンの調べ、沢山の人の波、冬が始まる・・・

乾いた落葉の匂い、焚き火ここでは焼き芋もしてるのか、甘い香りもまざっている。

小学校の大掃除の橙色のワックスの匂い、図工の版画のインクの匂い、今では懐かしい。

バタークリームのクリスマスケーキ、夜中にこっそり箱を開けて、バラ花の下をペロリ味見したあの甘い思い出。

餅が焼ける匂い、黒豆を炊く正月準備の匂い、今でもワクワクする。

ただいま。帰宅した私を迎える母と石油ストーブの匂い、顔を埋めたマフラーの匂い・・・

やがて続いてくる水仙・梅・ヒアシンスの花の匂いへのバトンタッチで、春が来るとともに私は進級する。

八幡まる子